

2026/6/3

中経論壇

経営支与援NPOクラブ
吉田 仁



の世界記録を塗り替えるなどが報じられている。介護ロボットなどは、身体的な介助だけでなく、話し相手となって癒やしをも与えてくれる。フ

宇宙船内をじっと見つめる赤色の眼に、ゾクリとしたのを覚えている。若いころ見た「2001年宇宙の旅」の「人工知能ハル」である。宇宙の旅をサポートする人工知能(AI)が飛行士と対立し争うストーリーに、高度に開発されたAIの不気味さを感じたのである。

近年のAIの進歩は目覚ましく、文章の整理・要約から、生成、フィジカルと人間の代りあるいはそれ以上の能力を発揮し、人間の活動や産業にとって有効な存在となってきた。政治面ではAI大臣が生まれ、マラソンでは人間

一方、AIの進歩に対する課題もいろいろ指摘されている。その一つが、多くの人の仕事を奪うという懸念である。だが、これは技術革新や社会の変化により必然的に起こる現象であり、人は新たな仕事を生み出し対応していくだろう。また、ハッカーに悪用される場合の金融活動などへの

AIの未来に懸念

脅威も挙げられている。これも各国が協力して、経済活動の危機を防ぐための措置が取られるであろうと楽観している。しかし、AIが軍事に利用されるとき、人間の理性がどれだけ働き、AIをコントロールできるか心配である。アンソロピックの研究者が、AI開発の安全性に対する懸念から、軍事利用することに警鐘を鳴らし退職したという記事を読んだが、研究者が自ら生み出すものへの真剣な恐れなのだろう。

開発競争は熾烈(しれつ)で、技術革新によりAI自身が意思を持つことが可能になるといわれる。それが暴走するであろうか。AIが人間のコントロール下にある時は、人間の理性に期待できるが、AI自身が意思を持った時、人間に対する配慮を期待できるのか。人間は人間の幸福を追求してきたが、AIが最終的に人間の幸福のために行動するとは限らない。不気味さを感じた「人工知能ハル」は、空想の存在ではなく、近い将来の姿かもしれないのだ。

国際機関が開発管理体制を

据えながら、開発姿勢に関心を持っていきたいと思っている。